

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

つて人口、世帯数ともに増加傾向にある。

矢巾町は岩手県のほぼ中央部、県庁所在地、盛岡市の南西部に位置し、農業を基幹産業とする田園風景が広がる町である。春のセンバツ高校野球に選手わずか10人で臨んだ不來方高校も同町にある。近年は盛岡市のベッドタウンとして発展し、17年2月1日現在の人口は2万7813人、世帯数は1万72世帯で、県内の人口が減少する中にあ

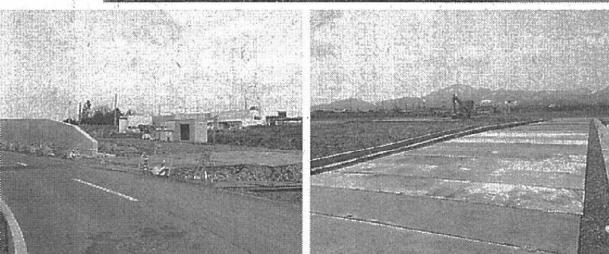
岩手県矢巾町・岩手医大の総合移転が進行中

付属病院は19年開業

で、高度医療を集約する3次医療拠点ゾーンの形成を基本方針に掲げている。また、敷地内に民間ホテルの誘致を目指しているほか、周辺の連絡通路を整備し、その近隣に店舗棟や保育所などを配置する計画も検討するなど地域住民との調和を図っている。

「スマートIC」も整備中

2つ目は矢巾スマートインターチェンジ（IC）の整備だ。町のほぼ中央部を縦断する東北自動車道にはパークングエリアしかなかつたが、大いに学園施設や流通業務施設などのアクセス向上の必要性



医療系4学部が同一校舎に

付属病院は19年開業

新設され、医・歯・薬・看護の医療系4学部が同一キャンパスにそろう全国唯一の医療系総合大学となることになった経緯がある。

この計画ではまず第1次事業として、07年に矢巾キャンパスを開設。また歯学部を新設し、さらに医・歯学部の教養課程が盛岡市本町キャンパスから移転した。

次に第2次事業として、11年に矢巾キャンパスへ医・歯学部の基礎講座などを移転し、17年4月には看護学部が開院を目指している。病院本体（11階建て）の延べ床面積は約8万6000㎡、病床数10000床の予定から、岩手県と矢巾町はスマートIC整備の申請を行、13年6月に国土交通省の許可が下り、16年5月に着工した。ICは現在の矢巾パーキングエリアに設置され、18年3月に供用が始まる予定。今後は救急医療での搬送時間の短縮や物流の効率化、企業誘致の促進が見込まれている。

このように付属病院の開院やスマートICの整備に伴い、交流人口だけでなく定住人口の増加も見込まれる。矢巾町は人口3万人足らずのコンパクトな町だが、少人数ながら甲子園で活躍した不來方高校と同様に、これからの大いに期待したい。

（日本不動産研究所盛岡支所 不動産鑑定士・昆野吉隆）

⑥岩手医科大学の矢巾キャンパス
⑤⑥整体中の東北道矢巾スマートインターチェンジ

<第46回>

設の老朽化が進み、また中心部にあることで施設拡張が困難な状況にあった。そこで抜本的な解決策として04年に総合移転整備計画「基本構想」が策定され、矢巾町へ移転す

ることになった経緯がある。現在は、最終段階として盛岡市内丸地区からの付属病院の移転事業が進ちょく中で、矢巾キャンパス北側に19年9月の開院を目指している。病院本体（11階建て）の延べ床面積は約8万6000㎡、病床数10000床の予定から、岩手県と矢巾町はスマートIC整備の申請を行、13年6月に国土

